

## ひきこもり・不登校等に関するアンケート調査

## 《中間報告》

中間集約日：平成 29 年 9 月 8 日（アンケート回答締め切りは 9 月末日）

中間集約時点の回答件数：34 件（配布数：家族会会員に 175 部）

## 1) 調査スケジュール

平成 29 年 6 月 アンケート調査票作成

7 月～8 月 アンケート調査開始（調査票の配付・回収）

9 月末日 回答締め切り

10 月 調査結果は、改定版（素案）の基礎資料として活用。

## 2) 調査の配付・回収

（ア）配布：子ども総合相談センターから各家族会の代表者に調査票と返信用封筒を送付し、会員に配付いただく。

（イ）回収：各会員が返信用封筒にて、子ども総合相談センターに返送。

## 3) 対象・設問内容：枚方市内で活動するひきこもり・不登校等の子どもを持つ家族会の会員を対象に

I. 子ども（当事者）・家族について

II. 家族会について

29 個の設問で構成しています。

## 4) 記入方法

・別紙、アンケート調査票に直接記入する。答えは、当てはまる番号を○印で囲むか、数字を記入する。

・「その他」を答えた場合は、（ ）内に具体的な内容を記入する。

・回答に迷う場合は、回答者の気持ち、考えに近いものを選ぶ。

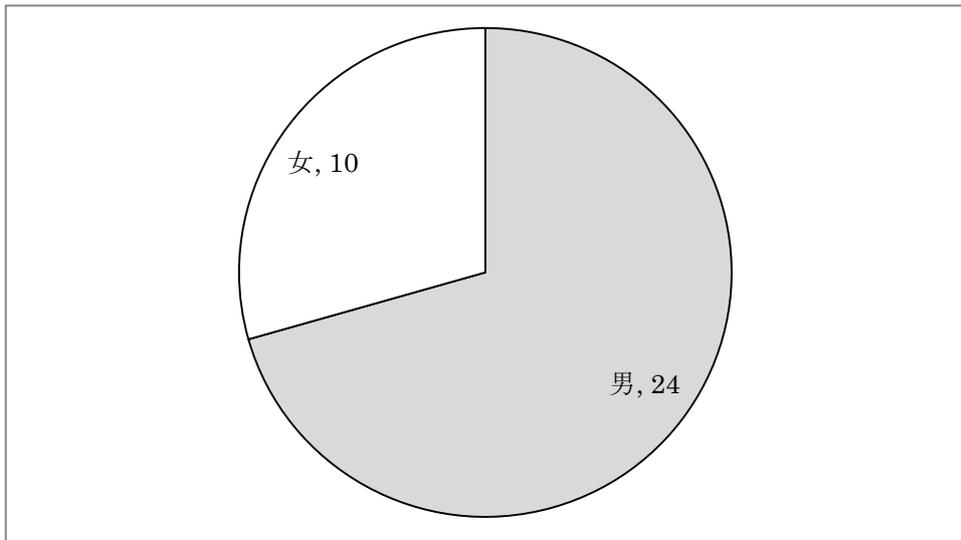
## 5) 配付・回収数

(2017 年 9 月 8 日現在)

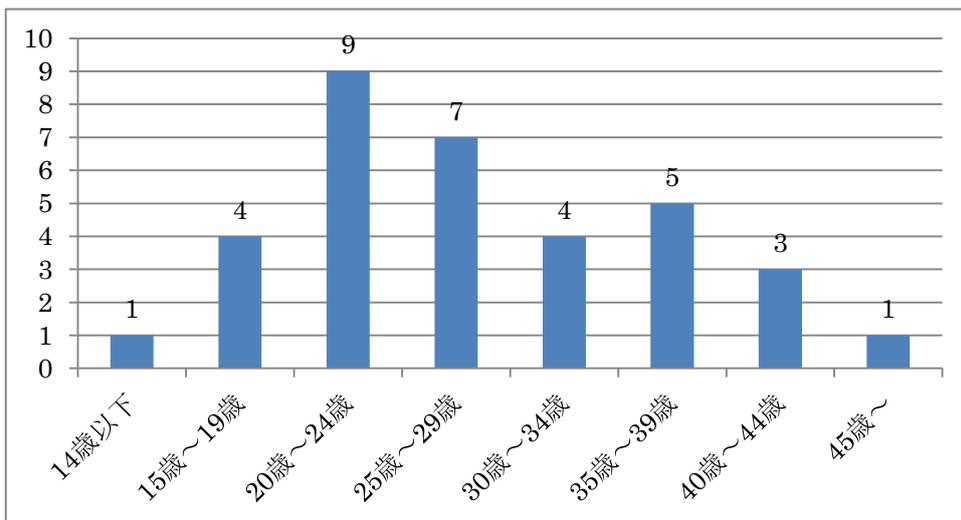
配布先	配布数	回収数	回収率
イシス大阪家族会	10 部		
つばさの会大阪	15 部		
登校拒否を克服する会北河内交流会	100 部		
不登校の親の会カモミール	50 部		
計	175 部	34 部	19.4%

I. 子ども（当事者）・家族について

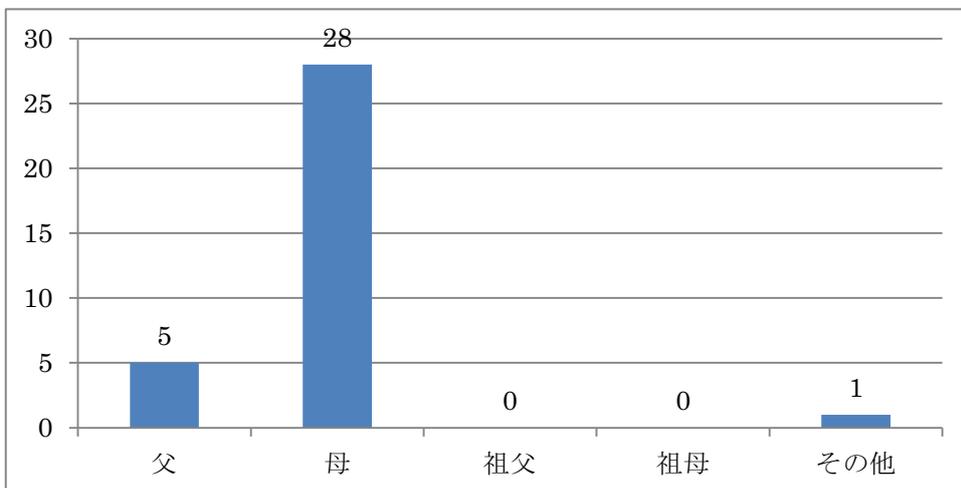
Q1 お子さんの性別をお答えください。



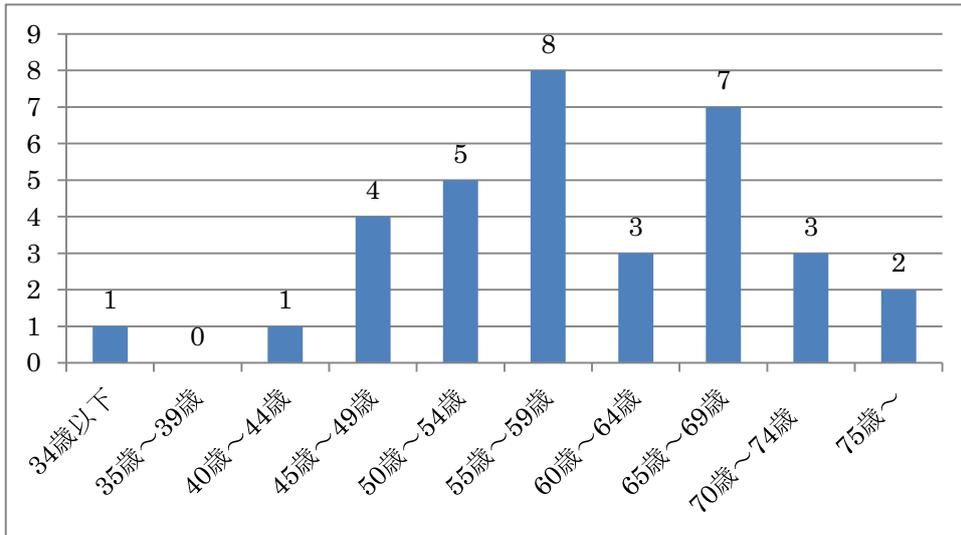
Q2 お子さんの年齢をお答えください。



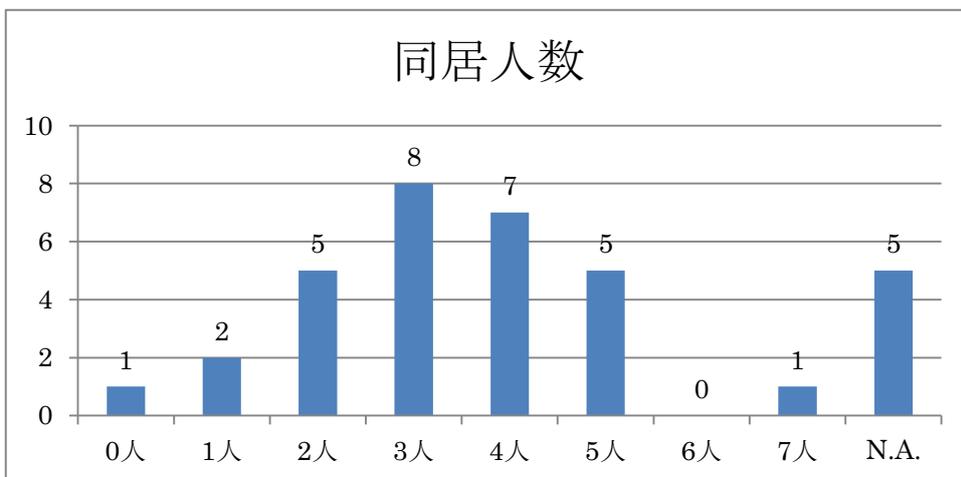
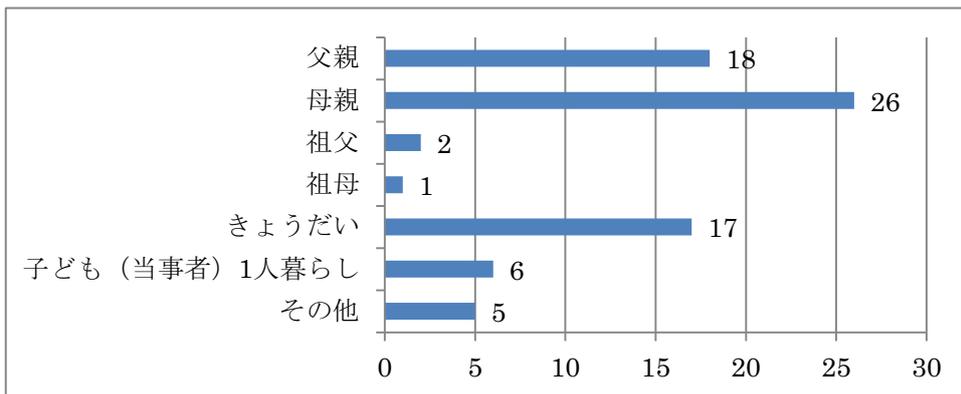
Q3 ご記入者とお子さんの関係をお答えください。



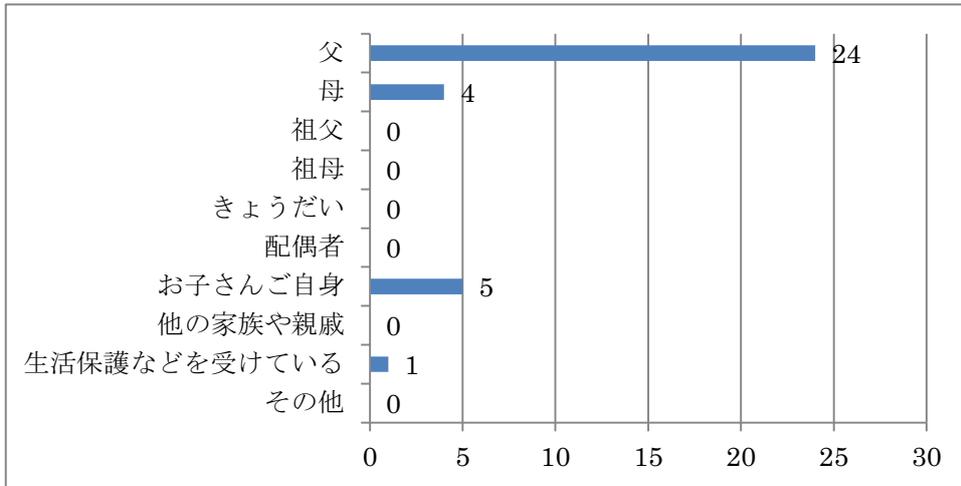
Q4 ご記入者の年齢をお教えてください。



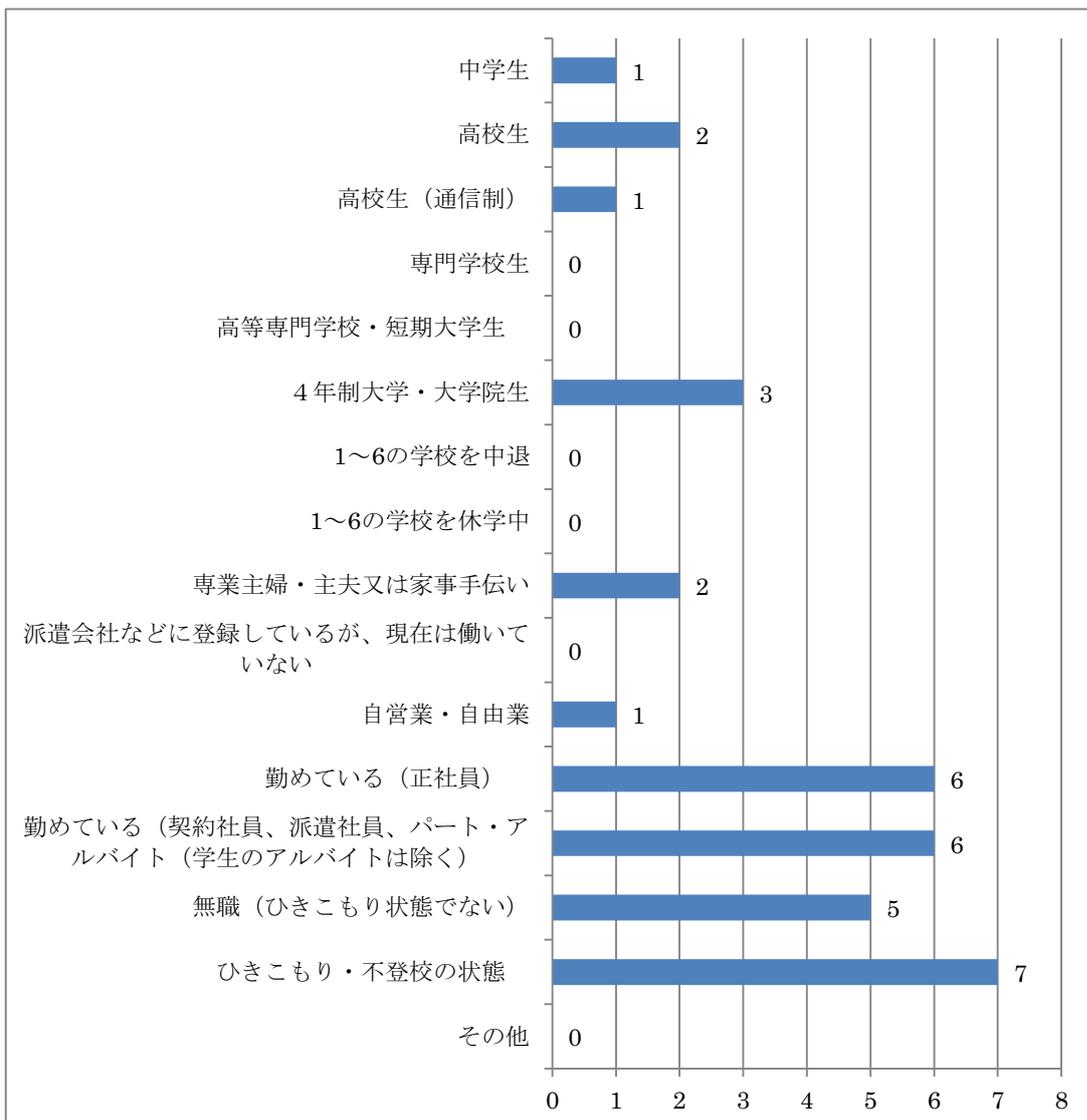
Q5 お子さんと同居している家族を教えてください。また、お子さんも含めた同居人数を記入してください。



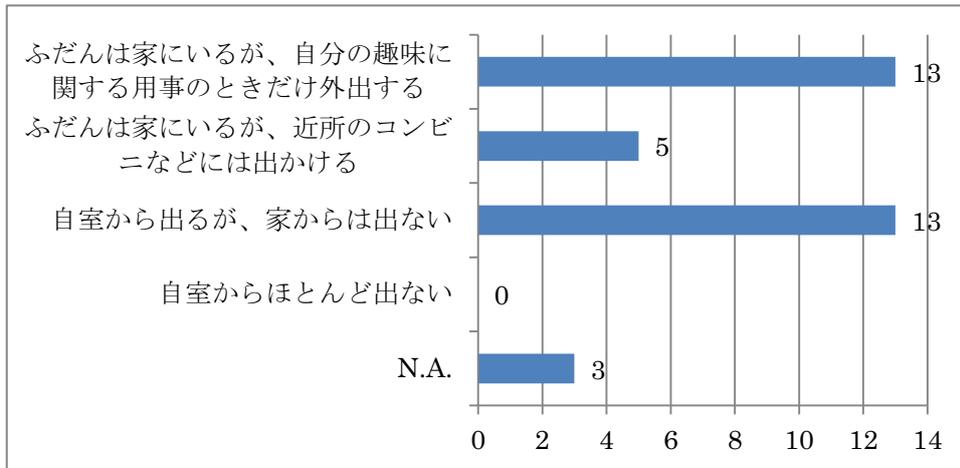
**Q6** お子さんの家の生計を支えているのは主にお子さんから見てどなたですか。生計を立てている方が複数いる場合は、最も多く家計を負担している方をお教えてください。また、主に仕送りで生計を立てている方は、その仕送りを主にしてもらっている人をお教えてください。(〇はひとつだけ)



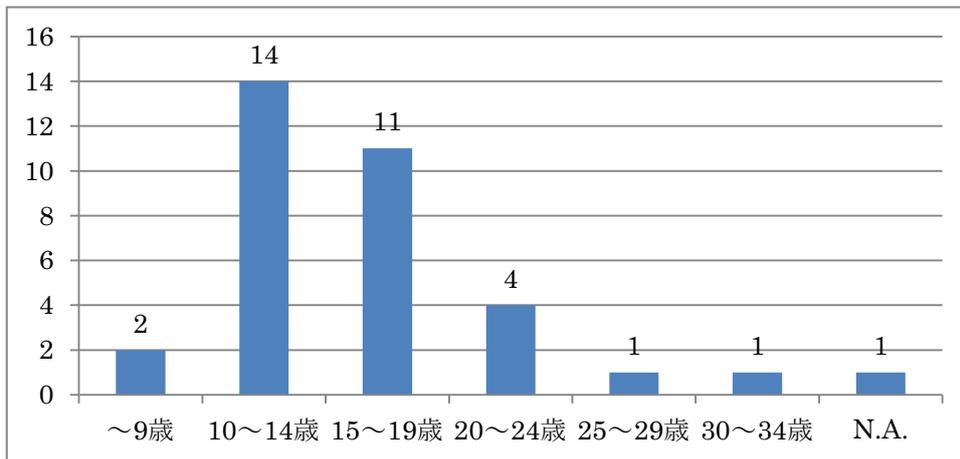
**Q7** お子さんの現在の状況をご記入ください。(〇はひとつだけ)



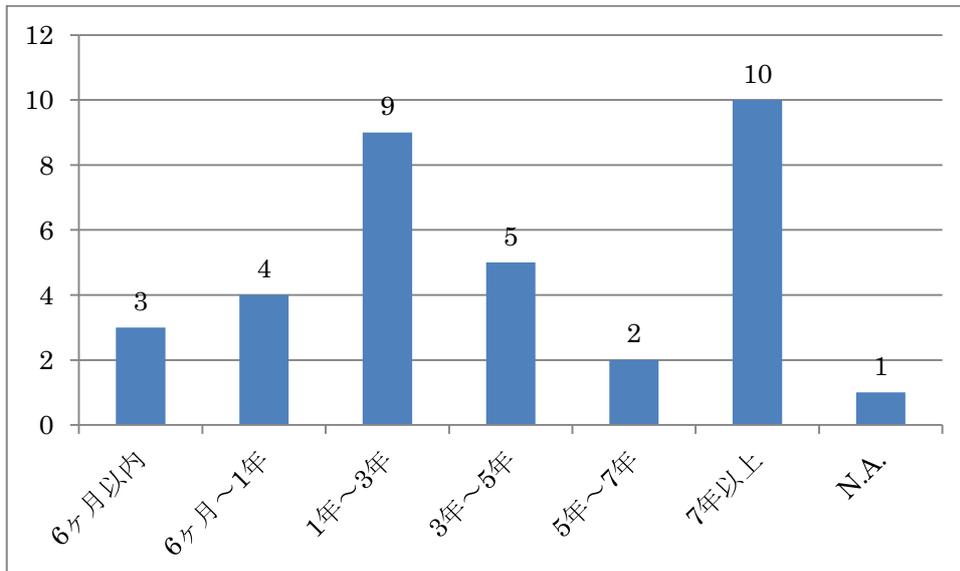
Q8 お子さんは、ひきこもりや不登校の状態で、以下のような状態になったことはありますか。  
(○はひとつだけ。当初の状態をお答えください。)



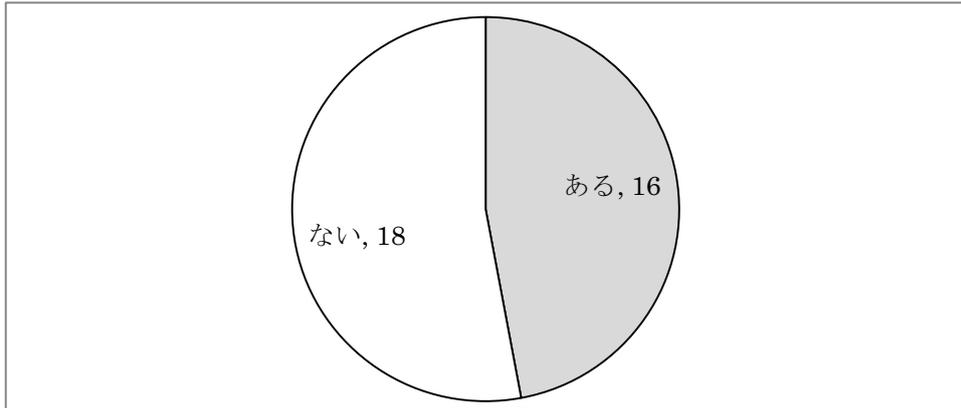
Q9 その状態になったのは、お子さんが何歳の頃ですか。(数字で具体的に)



Q10 その状態はどれくらい続きましたか。(○はひとつだけ)

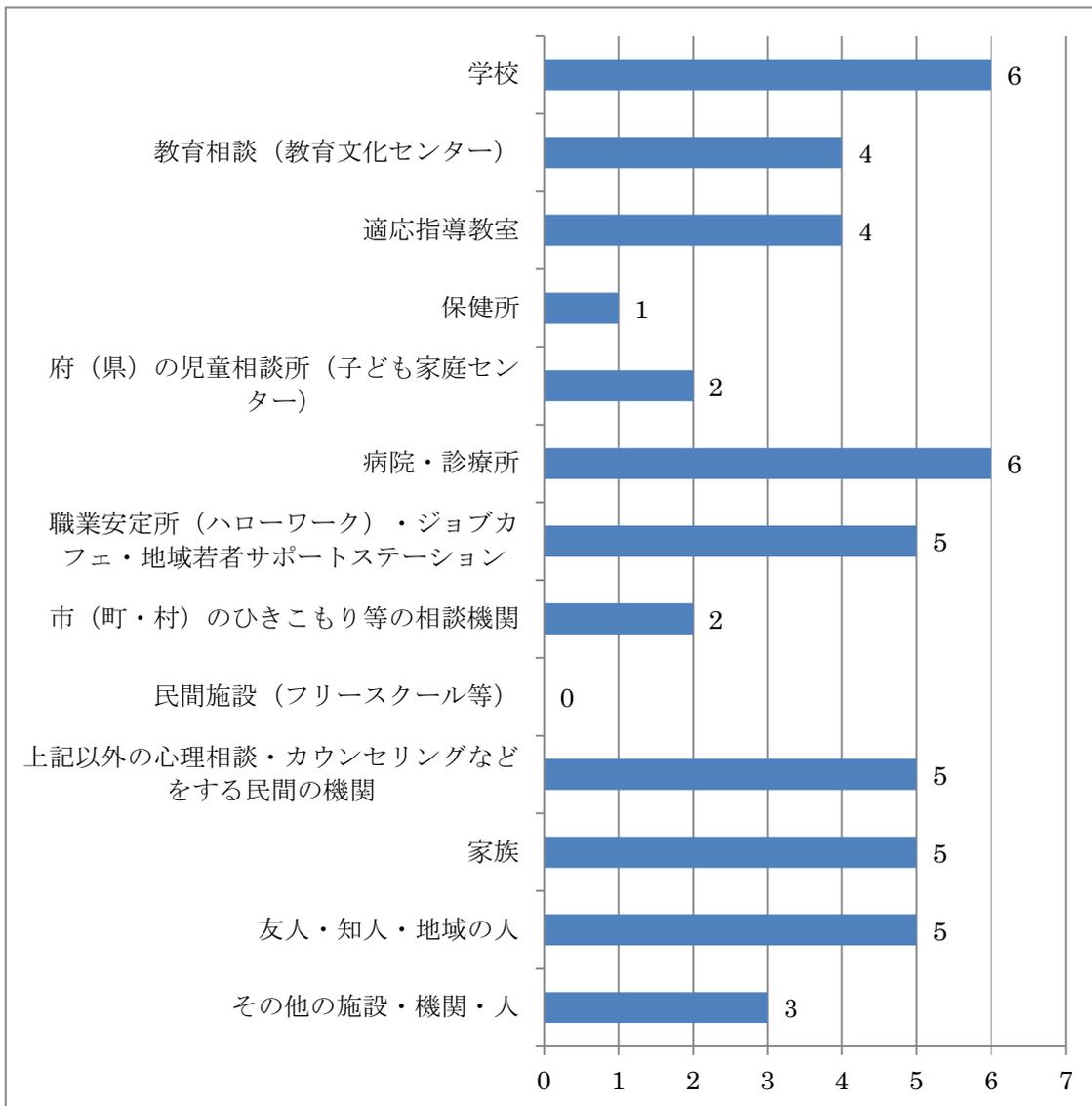


Q11 その状態について、お子さんが関係機関またはどなたかに相談したことはありますか。(○はひとつだけ)



Q12 どのような相談機関、人に相談しましたか。相談したことのある機関、人に○をつけてください

(○はいくつでも)

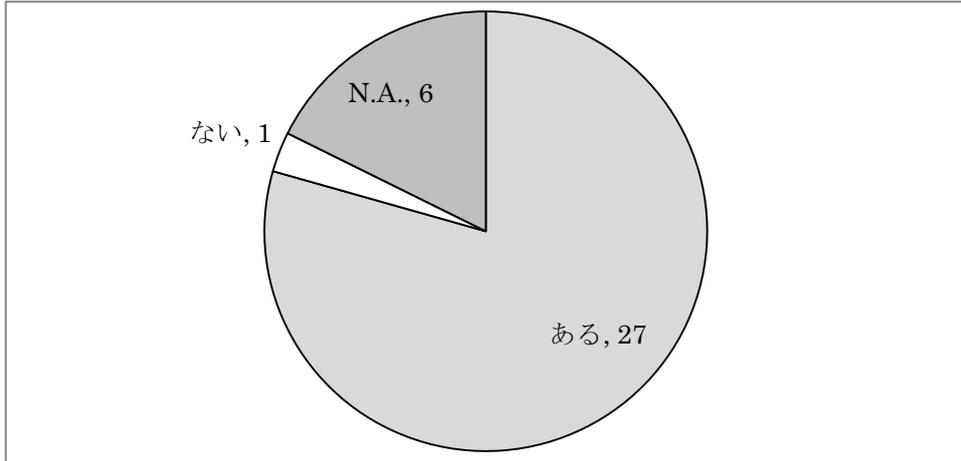


その他の施設・機関・人（具体的に：…）

○親の会（3）

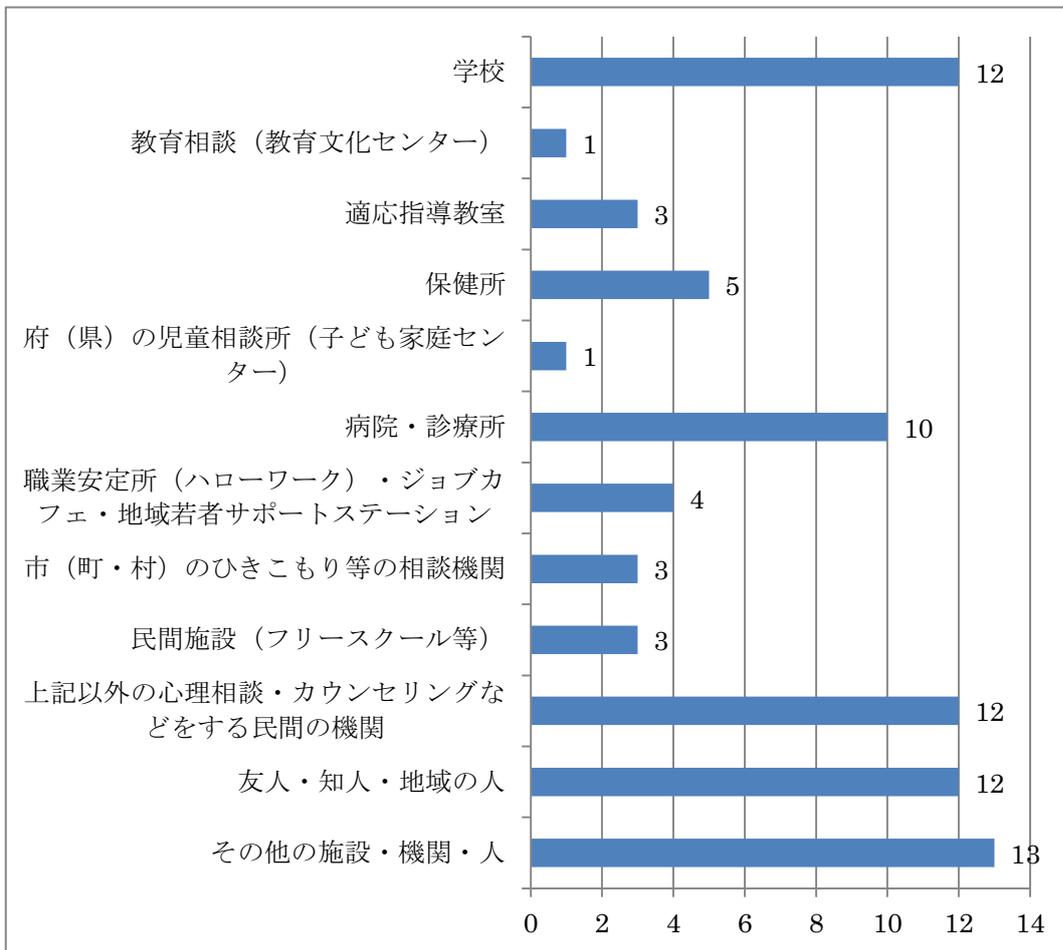
○地域のお母さんの会（ひきこもり・不登校の）、不登校の方の会

Q13 その状態について、ご家族が関係機関またはどなたかに相談したことはありますか。(〇はひとつだけ)



Q14 どのような相談機関、人に相談しましたか。相談したことのある機関、人に〇をつけてください。

(〇はいくつでも)



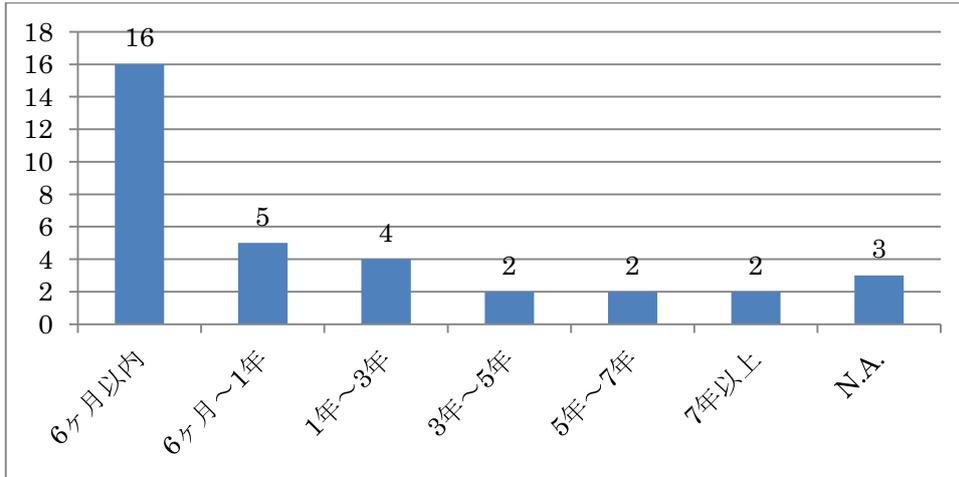
その他の施設・機関・人（具体的に：…）

○親の会（11）

○教育相談おおさか

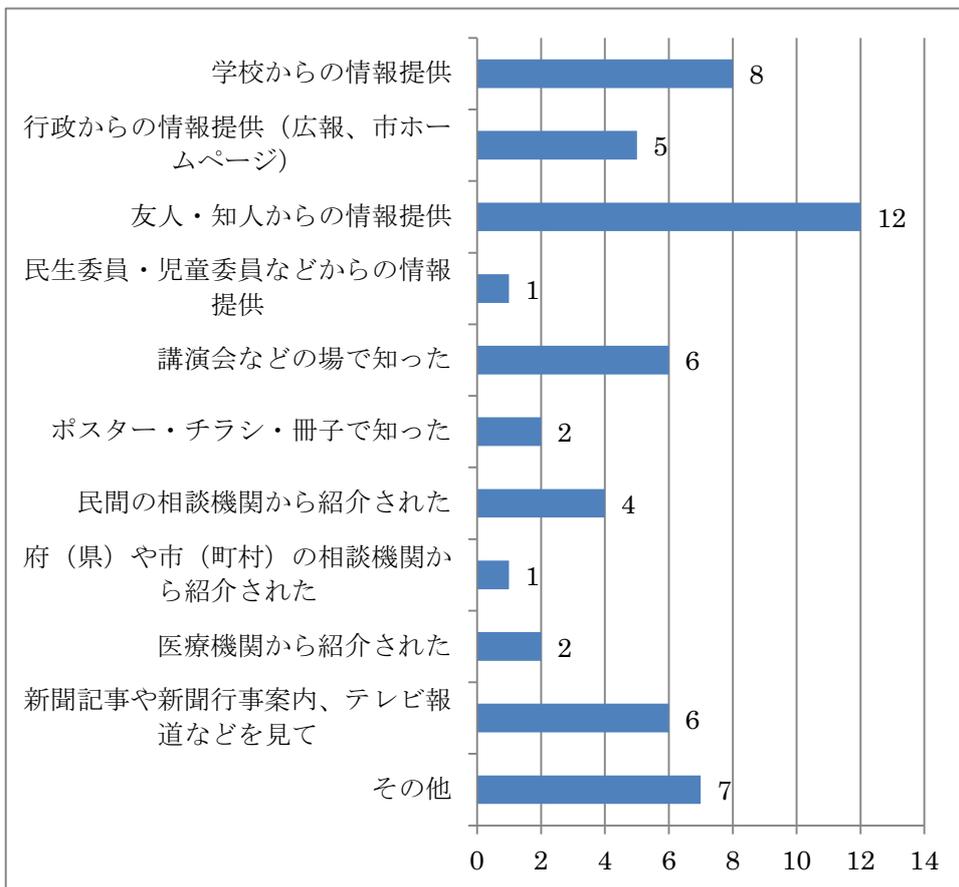
Q15 お子さんがひきこもりや不登校になり、相談機関につながるまでどのくらいの期間がありましたか。

(〇はひとつだけ)



Q16 相談機関につながったきっかけについてお教えてください。

(〇はいくつでも)



その他（具体的に：…）

〇きょうだいが不登校になった時に、親の会につながっていたので、その延長で。

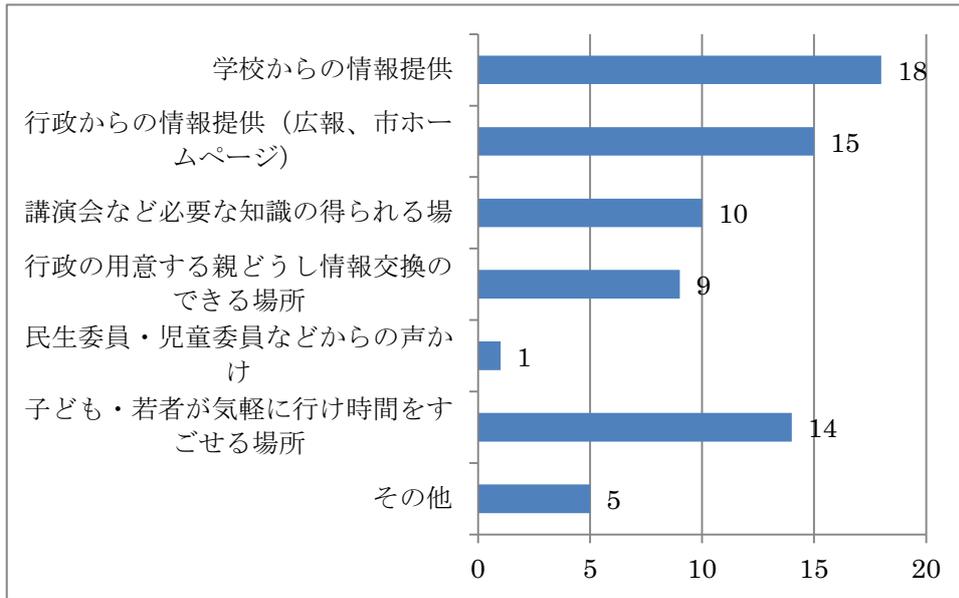
〇自ら親の会を探しにいった    〇インターネット（2）

〇家族から若者サポートステーションを紹介された

〇親の会から紹介された機関    〇医療機関から紹介された機関。

**Q17** 相談機関につながるまでの期間に、どのような働きかけや施策があったらよかったですか。

(〇はいくつでも)



その他（具体的に：…）

〇本人がどうしても動かなかった

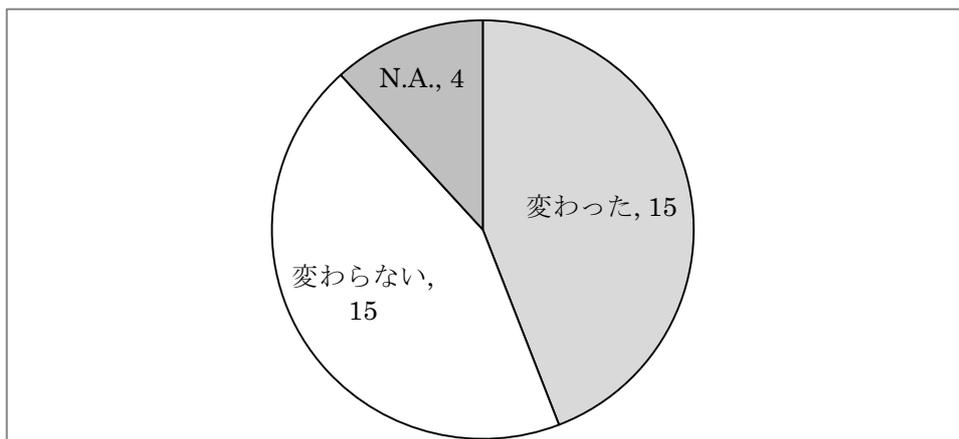
〇不登校の子どもの知識、確かな理解をしていただける方による、本人への家庭訪問

〇ボランティアのメンタルフレンドによる訪問

〇家庭訪問による定期的なコミュニケーション。本人と関わろうとしてほしかった。

〇子どもの弱点をわかり、若者が気軽に参加でき、成長させてくれる場所や、アルバイトの場やスポーツができる場所。

**Q18** 相談機関につながった結果、お子さんはどう変化しましたか。(〇はひとつだけ)



具体的に…

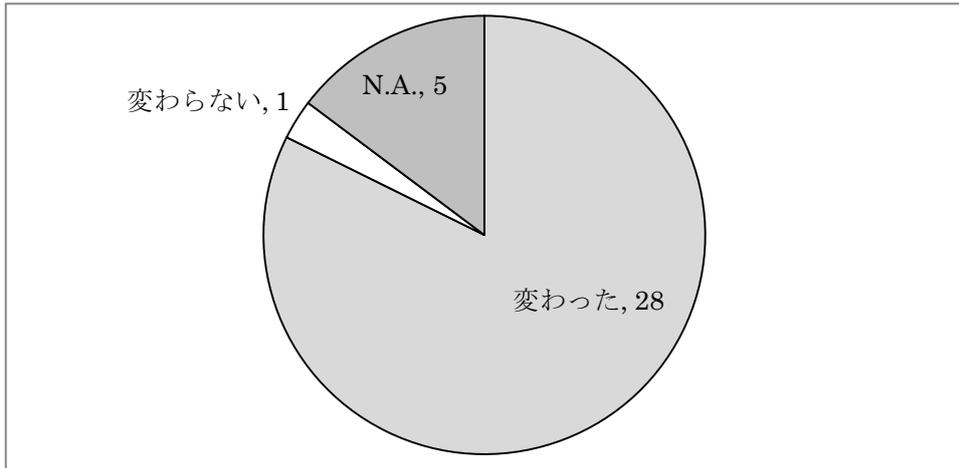
〇学校のカウンセラーの方に出会い、週1回は外（学校）に行くようになった。自分の味方になってくれる人と出会い、未来に対する希望が持てた。

〇同じ立場の不登校の友人ができ、大学生の時には他市の適応指導教室の指導員をしたことで、そこのつながりが今も続いている。

〇若者サポートステーションの紹介で府の就職支援センターに行くことができた。

- 少しずつではあるが、自信を持ってきていると思う面もあるが、対人関係の悩みであり、越えられない壁もあるように思う。
- もともと外に出るのは嫌ではなかったのですが、自分の行く所ができて少し元気になったような感じがした。
- 前を向く様になった。
- 少しずつ外に出られるようになり、理解してくれる人ができる事がとても必要で、大事だと感じたと思う
- 家族との会話が増えた。(受け答えだけだったが、今は、自発的に本人から話しかけてくる)。外出時の挨拶も本人からする。父とコンピューターの故障を修理したり、父との関係も良くなってきている。顔がやわらかくなり笑顔が増えた。
- 小学校の相談室(別室)の先生が、お手紙をくれ、相談室登校が出来るようになった。家から出るのも怖がっていたので有難かった。
- 適応指導教室に行くようになった。
- 自分をわかり行動するようになった。
- 高卒認定資格をとることができた。定期的に外出できるようになり、次の訪問機関につなぐことができた。
- その姿や表情が子どもに良い意味で伝わり、「休んでも大丈夫」と思って子どもも安心した様子だった。
- 相談機関につながった結果が、子どもの変化に関係したかどうかはわからない。(親がつながって、子どもは直接的にはつながっていない。)
- 気持ちはやわらかく、整理できるようになったが、状況は変わらなかった。
- 本人も相談機関に行ったが、その時は、まだわからなかった。
- 子どもは相談機関には行かず、父母が相談に行った。従って子どもに変化はない。
- 相談機関に子どもは行っていない。親だけが通った。
- 「働きたい」とサポステに行ったら、「仕事を紹介するところではない」と言われ、その後行かなかった。病院の方は通院し、症状は落ちついていった。
- 小学高学年から中学卒業まで不登校のあと、高校(通信制)へは、進学したが卒業後の進路が決まらず、現在ひきこもり状態。

## Q19 相談機関につながった結果、ご家族はどう変化しましたか。(〇はひとつだけ)

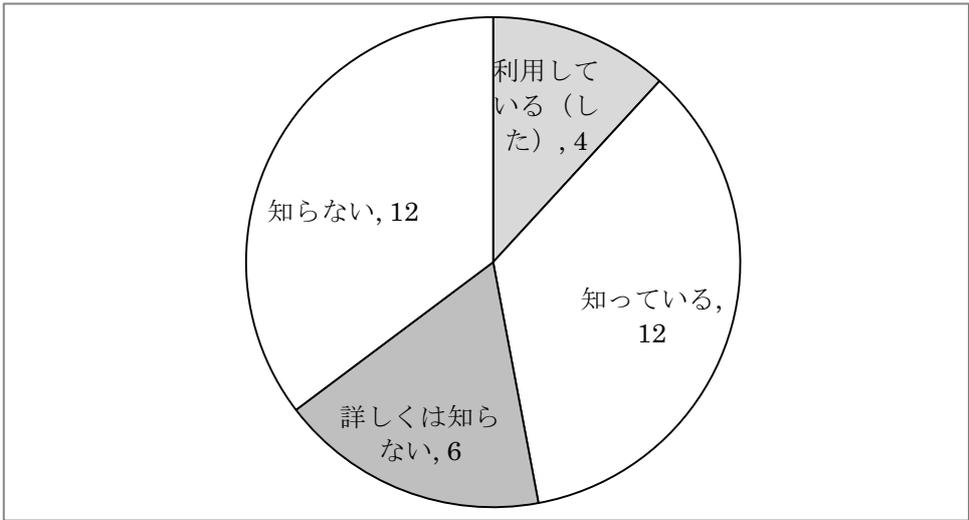


具体的に…

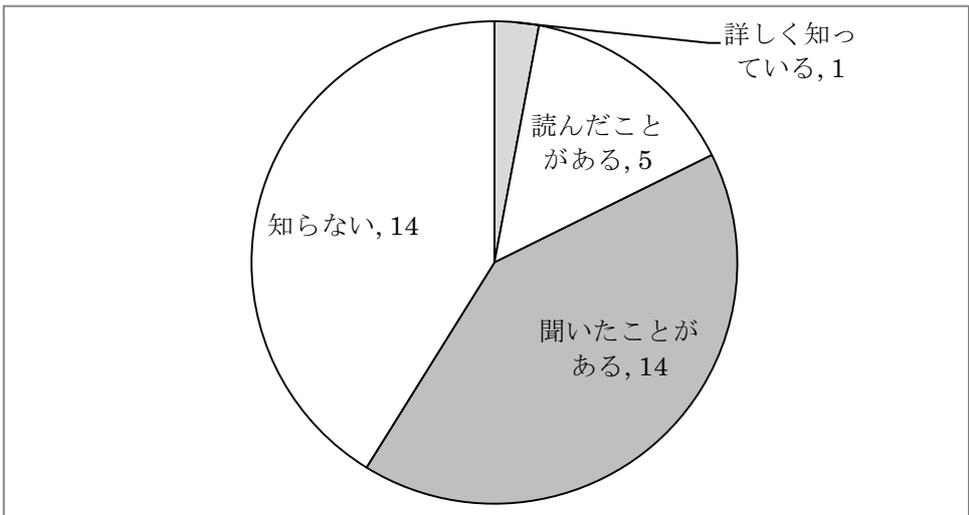
- 仲間がたくさんいて、心が軽くなったことで子どもの辛さを受け取れるようになった。
- 学校行きなさい！という事から行かなくて良し!!!に変化。毎日元気に暮らしてさえてくれればと、思うようになった。感謝している。
- 親の立場からの心配や悩み、子どもとのコミュニケーションのやり方を少しずつ理解できるようになった。
- 子どもの状態や気持ちを理解でき、親自身の今までの対応や気持ちのあり方を知ることができた。
- 人に話すことで、気持ちが落ち着いたり、整理されていったように思う。それが子どもの落ち着きにもつながった。
- 親と子は別の人格だということを身を持って受け入れられたら、とても楽になった。仲間ができて世界が広がった
- 安心し、まかせることができた。見守るだけでよくなった。
- 気持ちが楽になった。 同じ経験をした方の話には説得力があり心に残るものがあった
- 社会状況が良くわかった。又、色々な事例を学べた。社会のひきこもり問題がよくわかった。
- 親と子どもの接し方のまずさが、本人を形づくったと気付かされた。
- 同じ境遇の事例を聞き気持ちが楽になった。本人をリラックスさせるよう生活態度を変えた。
- 自分たちだけではない、自分が悪いわけではないと思えるようになり、気持ちに少しゆとりがもてる様になり、あせり感もなくなった。子どもに対して、生まれた時に思った元気であってくれば良いと素直にそれだけを望めるようになった。
- 夫婦の方向性の一致。本人を理解する。抱えていた不安や心配が少し軽減された。
- 子どもの状況をあせらず受け入れ、待つことができるようになった。
- 親の意識が根本から変わる必要があることがわかった。
- 親が落ちついてきた。話しを聞いてもらって、心の整理が少しずつでき、子どもにもゆったりと接する事ができるようになった。まず親が相談したり、話せる場所が大切だと思った。
- 子どもの思いに寄り添えたり、親としての役割がわかったり、自分も話すことで落ち着いた。
- 悩みを聞いてもらえるだけでも少しは不安が解消し、子どもにも落ちついた対応がとれた。
- 親の会に参加しているお母さんを紹介してもらい、自分の少し先を進んでいる人に会えて、安心したような、心がまえができたような気がした。
- あせらないで、まつことにした。

- その子を少しは理解して対応しようと思えた。
- 不登校に対する見方が変わった。肯定的にとらえて良い。
- 親が続けて行ったのは病院で、子どもの状態や、対応の仕方がわかっていった。
- 不登校の初期段階ですべき声かけや、親の対応が分かっただけでなく、親が他の体験者からのお話を聞くことができたので安心できた。
- 精神面で落ち着いた。でもその先へなかなか進めない。

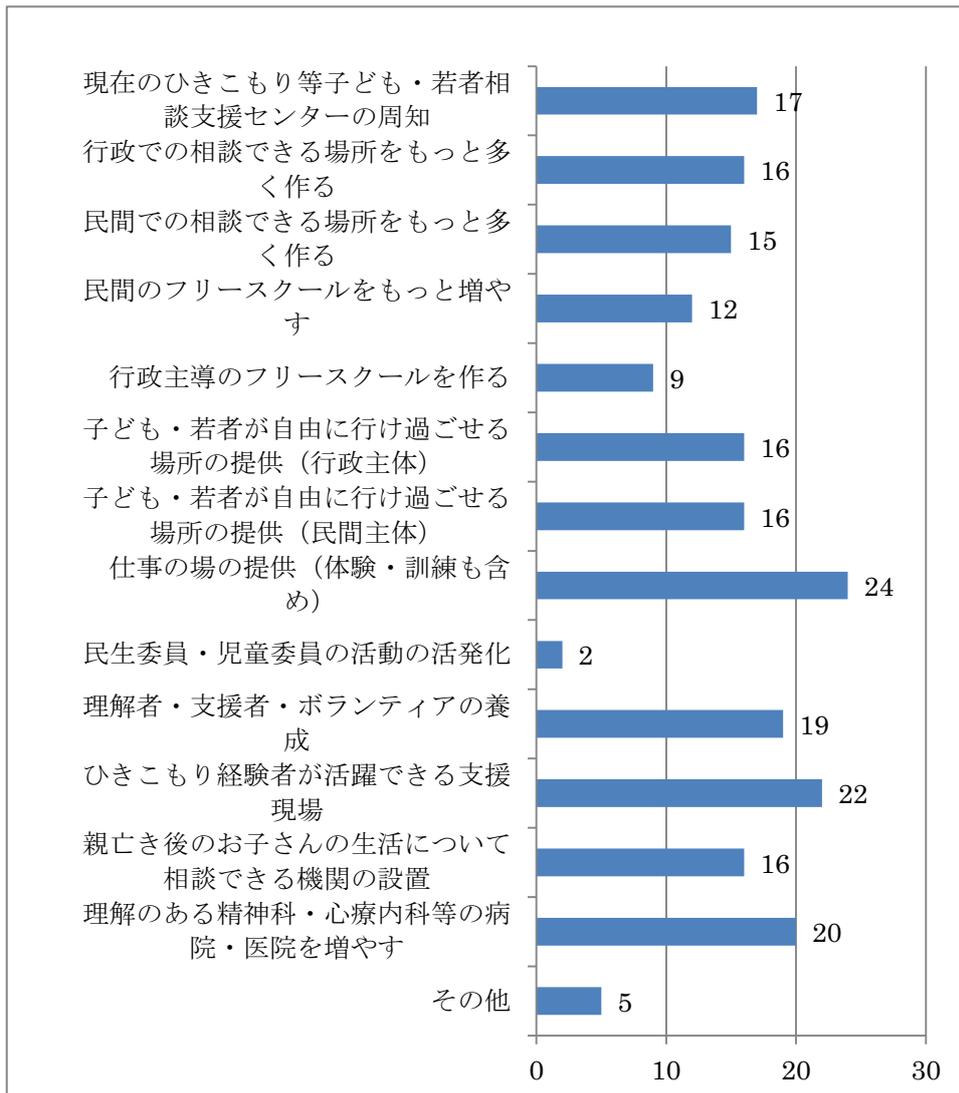
**Q20** 枚方市では、平成 25 年 4 月から「ひきこもり等子ども・若者相談支援センター」を開設し、現在枚方市駅前サンプラザ3号館4階の子ども総合相談センター「となとな」内で相談をお受けしています。「ひきこもり等子ども・若者相談支援センター」があることをご存知でしたか。(○はひとつだけ)



**Q21** 枚方市では、平成 25 年 5 月に「枚方市子ども・若者育成計画 ～ひきこもり等の子ども・若者の自立に向けて～」を策定し、計画に沿って施策を進めているところです。「枚方市子ども・若者育成計画」があることをご存知でしたか。(○はひとつだけ)



**Q22** 枚方市でひきこもり等の支援を今後もおこなう場合、どのような試みが必要と思いますか。市役所でできるだけでなく、民間でできると思われることも含めてお答えください。(〇はいくつでも)



その他 (具体的に : …)

○学校や周りの人の正しい理解

○心理カウンセラーの活用

○枚方市の若者サポートステーションを多用化し、就労だけでなく居場所的な身近なものになってほしい。

誰かとコミュニケーションを取り易い場所をつくってほしい (自分一人ではないと思える所)

○学校の先生方に勉強する機会をもっとほしい。採用試験で資質を見極めていただきたい。

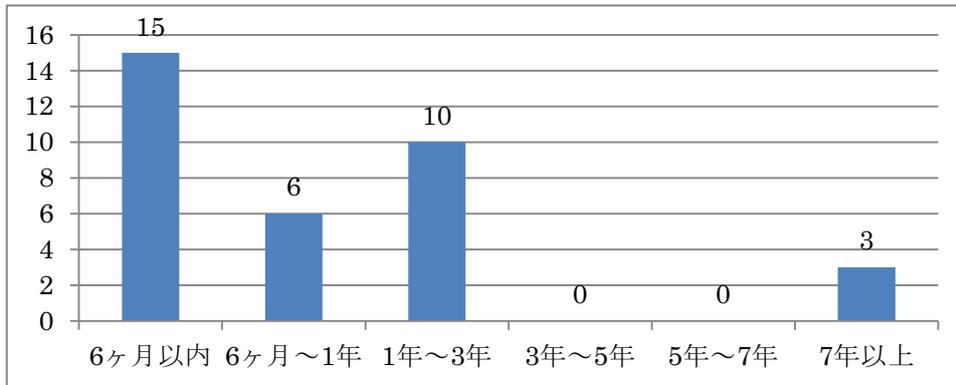
○どうしても当事者や家族がまず相談してからの支援になるが、相談機関につながってからは、当事者への働きかけをどんどんしてほしいと思う。行政主導や民間主体の設問があるが、行政・民間関係なく考えてほしい。でも基本は行政が職員数確保を考えても主体になるべきだと思う。

○民間事業でもしてもらおう仕組み作り (フリースクールなどの実績のあるところに居場所)。

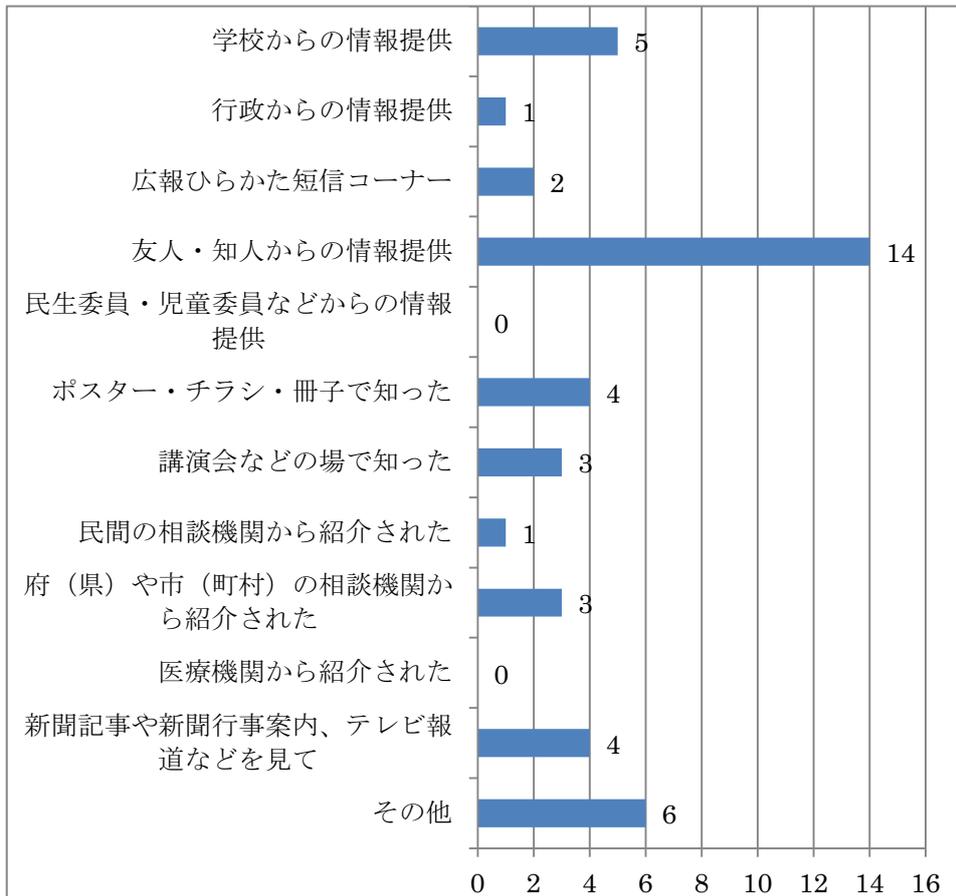
○家族はいくらでも相談に行けるが、本人が自分からはなかなか出て行こうとしないので、訪問支援を強く希望する。どんどん家に第三者が入ってきてほしい。子どもと二人だけだと、息がつまりそうになる。

## II. 家族会について

**Q23** 家族会についてお尋ねします。お子さんがひきこもりや不登校になり、家族会につながるまでどのくらいの期間がありましたか。(〇はひとつだけ)



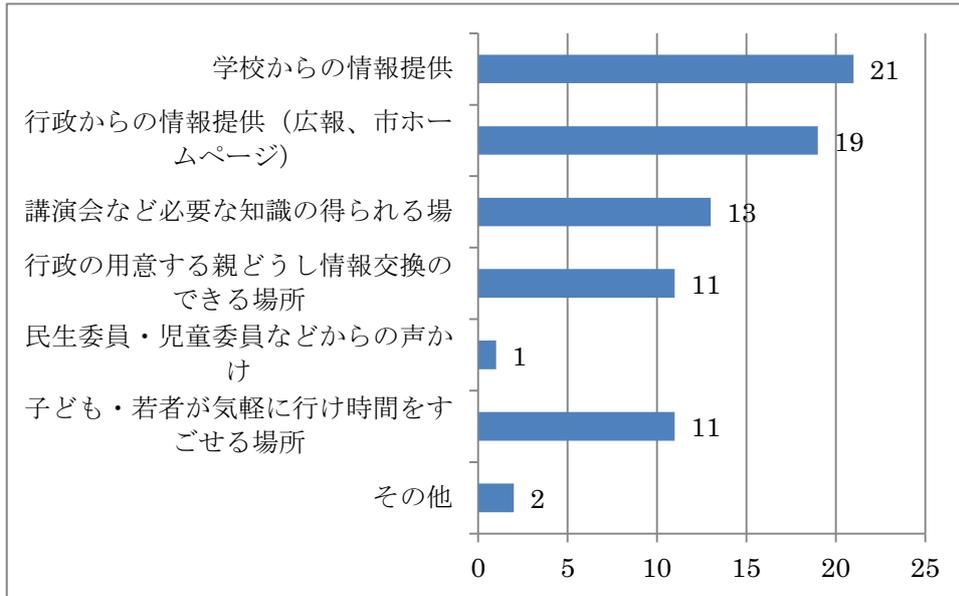
**Q24** 家族会につながったきっかけについてお教えてください。(〇はいくつでも)



その他(具体的に:…)

- スクールカウンセラーからの紹介
- インターネット(2)
- 本人が居場所を求めた時、家族会に入るよう勧められた
- 自ら家族会を探しにいった。
- 教員関係者として以前から参加していた。

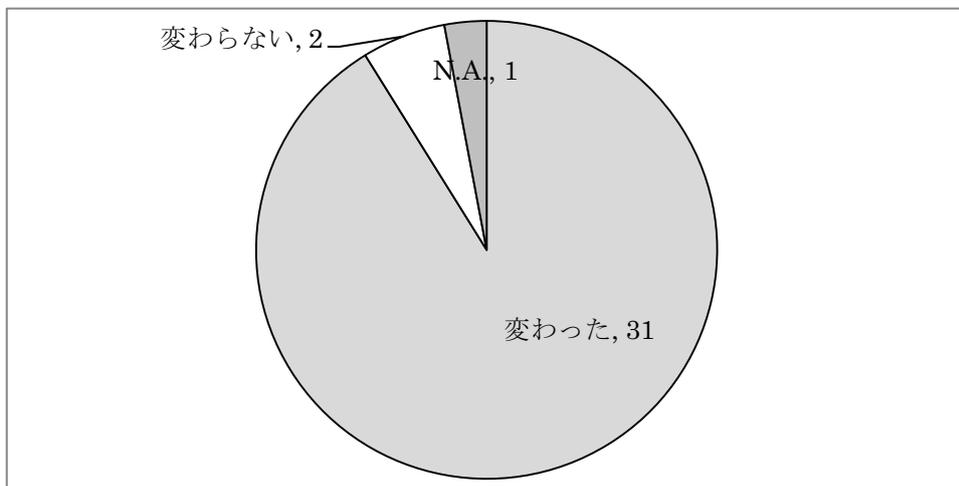
Q25 家族会につながるまでの期間に、どのような働きかけや施策があったらよかったですか（〇はいくつでも）



その他（具体的に：…）

- 社会の中にひきこもりに関する正しい理解があればよかったです。（問題行動だと責められた）
- その子をわかってきて、気軽に参加できる、スポーツや、遊び場、アルバイト先があるといい。
- 定期的に訪問して本人に働きかけてくれる専門知識をもった方がいるといい。

Q26 家族会につながった結果、ご家族はどう変化しましたか。（〇はひとつだけ）

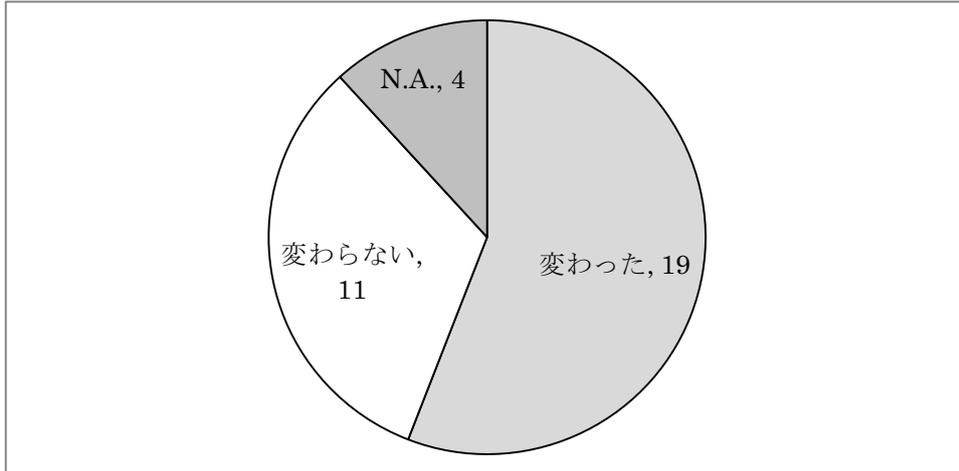


具体的に…

- 辛いのは自分だけじゃない、子どもも苦しんでいる。仲間がいる。仲間と心が通じて分かちあえるので楽になった。
- 同じ状況の人と出会い、互いに励ましあうことができ心が楽になった。親同士で相談できる環境があり助かった。
- 会に参加し、家族に話をすることで、聞いてくれ、行動してくれた。
- 当たりまえであった日常を見直す気持ち。自分の責任で子どもをこのような状況にしまったという負い目が軽くなった。

- ひたすら話を聞いてもらうことで、気持ちが落ち着いた。他の方の経験談を聞いて、気づかされること、先の見通し、励まされたことが多くあり、心の寄り処となった。
- 安心して過ごすことができた。
- 同じ経験をした家族の方の意見は、とても参考になり、カウンセラーの先生のアドバイスも勉強になっている。気持ちが楽になった
- 本人との接し方、親の考え方、親子の関係が変わった。子どもは親の持ち物ではないということ、一個の人間として認める自由。
- 子どもへの対応方法を理解した
- 子どもの現状を多少理解出来る様になった。就業を迫る態度を改め、本人を追い詰めない様になった。
- 参加したことはないのですが、会報はいつも楽しみにしていた。
- 共感できる人たちにはじめて会った事、親自身自信を失っているの、勉強する事により、親のとらえ方を学んだ。一人ではないと実感した。
- 自分の状況や悩みを話せたり、同じ悩みを持つ親の話も聞いて気持ちが軽くなった。
- 気持ちをほき出す場ができ、精神的に少し落ちつけた。
- 同じような環境の方と具体的な話をする事ができるようになったことで、少し気持ちに余裕ができた。
- 話を聞いてもらえる場所ができた。とても助けられた。他の子どもたちの様子も聞いて、先輩たちから話しを聞き、未来の道が少しずつ見えてきた。家族がまず、落ち着いてゆったりとして、子どもを見られるようになった。夫婦での話し合いもとても大切だと、あらためて思え、孤独感がうすらいだ。
- 精神的に親が落ち着いた。信頼関係を作ることを大切に。声かけを忘れずしている（おはよう、出かけてくる、ただいま、おやすみ、～をしてくれて「ありがとう。」の声かけ）。
- 1人で思い悩んでいたが、家族会に入り、自分の今までの思いを話し、他人の経験を聞かせてもらい、気持ちが「スーッ」と晴れて行った。自分だけが悩んでいるんじゃないことや、答えはいつ出るかはわからないが「あせらず」「ゆっくり」を心に決めた。
- 悩みをお互いに出し合ったり、話す事により気持ちが整理でき落ち着いた
- 話をしてもわかってもらえないことが多かったので、学族会で共感してもらえることに少し安心した。子どもはおかしくないと思った。
- 先にひきこもりになった人の話を聞き、1人だけでないと思い、気持ちが楽になった。
- その子をそのまま、受け入れることができるようになった。
- 自分の意識が変わった。本人を変える方向ではなく、自分の考え方や行動が変わり、気持ちが楽になった。
- 精神的に落ち着くことができた。
- 心から受入れるには時間が必要。子どもを信じる事で今では、仕事はしていないけれど、うちの息子は长大了子だと思える様になった。
- 自分の話、家族の話を、何度もたくさん時間聞いてもらった。話すことで子どもと距離をとれるようになった。自分や子どもは一人ではないと感じ安心できた。

## Q27 家族会につながった結果、お子さんはどう変化しましたか。(〇はひとつだけ)



具体的に…

- 中学校の先生とのすばらしい出会いにより、心がほぐされて、高校進学につながったことは変わったこと。  
(それは親が親の会につながった結果かどうかはわからない)
- 他の家でも自分と同じように悩んでいて、親目線での悩みや子どもからのしてほしいことなど、お互いの抱えていることを少しずつ理解することができた。
- 少しずつホッとした表情、態度に変化していった。
- 親の気持ちが楽になり、接する時にも否定せず肯定的に対応することを心がけたことにより、本人も少しずつ自信を持ってきていると思う。
- 少しずつ、親とリラックスしてしゃべれるようになった。
- すぐ変化があったわけではないが、親から落ちついて時間を過ごす事で子どもの行動を理解できる様努めた。子どももゆっくり時間を過ごした様に思う。じっくり時間をかけた。
- 自己肯定ができるようになり、進路を考えられた。
- 母親とは話すようになった。飼い猫を通して笑いあえるようになった。共感できるようになった。
- 子ども同志の交流の場を持つ事により、同年代の友人も出来、悩みを相談したり、自分だけではないと安心感を持てたのではないかな。
- 親に少し気持ちの余裕ができたおかげで、子どもも安心して家にいられる様になったと思う。相変わらず無理をして学校へ行こうとしていたが、必要以上に怖がったり、手を洗いすぎる様な行為はなくなっていた。
- 親が変わったので子どもも安心した様子。
- 全国不登校の宿泊会の費用を出してくれた。本人は行きたがらないが、親が元気になってくれたらと願ってくれたのでしょうか…。
- 自分はこんな人間と認め、自立するための行動に出た。
- 子どもも一緒に参加出来た。
- 少しずつ、良い方へ。ほとんど外出しない→週1回程度外出する。少し明るくなった。昼間に起きていることが増えてきた。
- 自分のやりたい事を、自分の力でやり通す。
- 親が覚悟を決めて、子どもと一緒に楽しいことをしようとしてから、子どもも、ほっとしたようで、落ちついていった。あせらずじっくりいこうと思ったよう。
- まだ本人は知らないのですが、また、隠しているわけではないが、親が通っていることを知ったときどう反応

するかわからない。親が変わることで本人の気持ちに柔らかさがでてきたような気はしている。

○子どもには家族会や相談に行ってる事も隠していた。(話しにくい状況だった為)

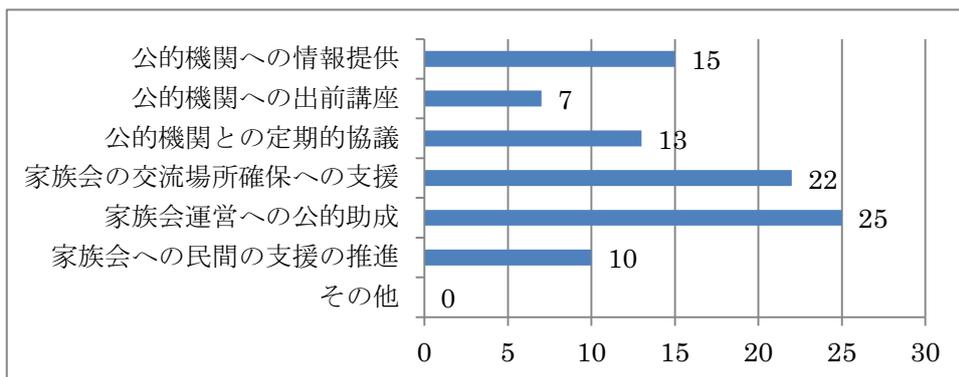
○子どもは家族会のことは知らなかった。

○学校へは少しだけ行くこともできるようになったが、今までと変わらなかった。

○高校は卒業できたが、その先(進路)が決められなかった。そして現在に至る。

**Q28** 枚方市家族会連絡会からの質問です。家族会は、困難を抱えた家族への周知が不十分で、運営もボランティア中心で支援体制がありません。家族会の周知や支援体制などの要望を具体的にお知らせください。

(○はいくつでも)



その他(具体的に)

○不登校の親に、家族会があることを、学校から知らせてほしい。参加する、しないにかかわらず、相談したり、話し合う場所がある事を知らせてほしい。

**Q29** 最後の質問です。現在、子ども(当事者)やご家族が感じておられる心配なこと、あるいは変化のきっかけとなる(なった)こと、Ⅰ、Ⅱの設問では伝え切れなかったことなど、ご自由にご記入ください。

○学校の先生は多忙で、学校に来ない子どものことまで対応できないというのが本音ではないか。また、不登校への正しい理解がないために、子どもや親が傷つくことをたくさん見聞きしてきた。そんな中で我が子は1人の中学校の先生との出会いで元気になっていった。成人した今も親子でつながっている。運がよかった。感謝しかないが、それですませていいのかとの思いもある。運・不運で子どもの将来が決まるのはおかしい。

○良い相談機関があれど、本人が外へ出なければどうしようもなく。中学校から学生ボランティアさんを連れてきて下さったのですが、会うこともせず。14、5才の頃は、どうにもこうにも仕方がなかった。なんとか担任の先生には心をゆるしていたのか、お話して受験し高校だけは行った。でもまたそこで、つまづくことに。そこから5年間暗い日々、辛かった。今はバイト生活、何を考えているのかは分からないが、真面目にしている、良しとしている。

○高校を不登校で中退。大検(高認)の資格をとって大学に入学した。今はデザイナーとして正社員で働いている。学校に行けなくなった当初は、「まさか自分が…」と自己嫌悪で苦しんでいたが、学校カウンセラーの方や家族会の方々と出会うことで少しずつ未来への一歩を進むことができるようになった。あれから10年経ちますが、不眠症や対人関係での悩みもほとんどなくなり人生を楽しむことができている。やはり自分の苦しみを理解してくれる人が1人でもいると、生きる希望が持てる。そして家族と当事者の橋

- 渡しを行政や民間でできるところが増えると現状の解決につながるのではないかと思います。不登校、ひきこもりになっても生きる術はたくさんある。“人との出会い”が解決してくれると私は思う。
- 年齢と共に少しずつ変わりつつある。家族も同じく年々共に気持ちが変わり、少しずつですが前へ本人は進んでいるので、周りも落ちついて見守れるようになった。少しずつ前へという状態なので、将来、社会へ出て仕事をする時、ついていけるのかなあと心配になることもある。
  - 学校へ行けなくなった子どもへの初期対応をお願い出来る学校関係者の方は非常に少ない。もちろん親・兄弟にとっても初めての事ですので、わからない事だらけで手さぐりである。家族で不登校の子どもを支える難しさ、「きょうだいへの風当たりがあったり、病気だと決めつけられて病院へ行く事を強要されたり」言葉にはつくせないほど考えて考え抜く毎日だった。家族会で出会った方々がいらしゃったから、がんばれたのだと思う。子どもが学校へ行きにくくなったり、行けなくなったり、そんな時のスムーズな行政民間一体の流れがあれば、遠回りしないで救われる家族もあるのではないかと思います。
  - こういう用紙を書くことで「あーうちは問題のある家庭なのだ」と落ち込んでしまう。協力を拒む気持ちではなく、かなり元気になったつもりでも、まだ心の整理がつききれていない、自分の気持ちに気付かされるということ。つながってくださった方々のお陰で、親が、少しずつ元気になり、明るい空気を家庭に注ぐことで、本人も家族も同じように明るくなっていったと感じている。” 視るは合わせ鏡” 本当にその通りだと思う。習い事もし、ごはん作り（おこづかい発生）もしている本人に「学校へ行かなくてもいいよ」という気持ちで接することで心が落ち着くが、スクールカウンセラーや担任の先生の「学校へいくことがマル」という立場での接し方に当然かと思いつつ、心の置き場所がしっくりこないのが本音。家族会にも、親や子どもにも支援が少ないことを痛感している。
  - 不登校は学校に行ったらすべて解決するというものではなく、当事者である子どもが自分の力で自信をもって生きていくことができれば、形はどうであれ（学校に行ったり就職したということに関係なく）OKだと考える。
  - 親自身は、「親の会」で落ち着くことができた。子ども（当事者）自身は、同じ立場の友人に出会い、話ができ、その人から影響を受け、専門学校に入ったことでよい方に向かった。子ども自身の気づきがあったこそ、専門学校→若者サポートステーション→就職支援センターへとつながっていった。本人が情報を得て、意志を持つことが大事。
  - 対人関係に不安があり、社会生活に支障を来し家で過ごしている。今後、親も高齢になっていき、子どもの将来が心配である。心療内科に、一度本人も受診したが医師とは合わずだった。相性のいい医師に出会えるまで受診するエネルギーが本人にあるのか。日常生活の中で人と接する機会があるときに少しずつ対応し、自信をつけていってほしい。
  - 親がひきこもりについて学習し、又、親として、自分磨きをする内に子どものことから少しずつ、距離が、置けるようになり、親も子も一人の人間として、自覚出来たことにより、本人がいつの間にか、何かに気付き動き始めたような気がする。
  - 子どもの今後の生活が自立できるか。
  - 親が死亡後子どもがどうなるのか心配
  - 親亡き後の子どもの生活問題、当面の生活支援。現状から親の生存中には自立の見込みが立たないので、長期的視点での行政からの支援体制が必要。
  - 今振りかえっても“これ”といったきっかけはわからないが、必ず出口はある。出口のないトンネルはない。子どもは必ず立ち上がる。
  - 相談機関の大切さ。親自身が勉強する事。仲間づくり。親も子どもも自己肯定感についてよく考えられる

ようになった。悪い事ばかりではない。

○大学で友達が出来ず大学に通い続けるかどうか心配。何とか（気の置ける）友達や仲間が出来るとうれしいのだが。

第三者の介入が無ければ変化は難しいと思う。

待つ「見守る」だけでは前に向きにくいもの。第3者が必要で、まず、学校にボランティア的な訪問をしてくれる方を設けてほしいし、市にも数歳年上のお兄さん、お姉さんのような子どもに近く話しやすいメンタルフレンドを設けてほしい。居場所もどれだけ探しても見付からず残念だった。市役所の相談室に本人が相談に行くのはかなりハードルが高い。

○心配なことは、本人が自分の選んだ不登校という道を否定的にしかとらえられないでいること。自己否定から解放されないまま毎日を送っていること。それによる自暴自棄になってしまうのではないかと。まだまだ先は長いと、少しずつ受け入れる覚悟のようなものが親にできてきて、カウンセラーの先生には“お母さんが変わった”と言ってもらった頃が同じくらいの時期でした。なかなか行きたがらなかった中学時代のカウンセリングだったが、卒業してから「あの先生に話したいな、会いたいな」と言うようになった。いつも同じ態度で（平常心で）見守る、本人の意思を尊重することを徹底して教えていただき、それを心掛けるようにしている。少しずつですが、本人との会話が増えてきている。

○親はどうしていいかわからず、うろたえてしまう。

少し落ちついてきた時に相談する場所や、家族会を具体的に、教えてほしい。最初はなかなか参加できなくても、相談する所があるというだけで、少し安心できる。講演会のお知らせもぜひ伝えてほしい。

足どりが重くても、参加してみようかなと思いはじめている。

親が参加しておちついていくと、子どももおちついていく。子どもも、外へ目を向けて、動き出す。

いろいろな道がある事を、親から伝えたい。これも親の会に参加したり、相談センターに親が行く事で伝えられる。

☆まず親の話し合う場所を通じて親が元気になり、次に、子どもの居場所が必要になると思う。

○子どもは中学から不登校になった。友だちに連れられてみんなが帰ってから学校に行き、校長先生から卒業証書もらった。その後、3年間、学校には行かず過ごした。18才の時に、急に学校に行くことにし、今高校に通学して2年目になる。同級生の友だちは大学生。親としてもとても不安で、将来どうなりたいたのかなと毎日つらい日々を送っていた。その中で家族会に参加したり、枚方サポートステーションで相談を受けたことが、とても良かった。「子どもを信じて待つ。それだけではだめで、たまには思いをきいたり、困ったことがあれば手助けすると安心感をもたせることも大切、親も自分の人生を生きる。」等々沢山の事を学ばせて頂いた。これから子どもは、電機関係の大学にいき、就職したいと考えている。それが叶うように願うのみ。

○家族が感じている心配なことは、親の死後どう生きていくのか、これからどう生きていくのか、今のままでいいのかなど話し合いができないこと。それらしいことを言うと、だまってしまう。聞くこと自体が子どもを苦しめるのではないかと不安になる。良好な関係が悪くなるのではと不安になる。突っこんで話しできない弱点が親にある。他のきょうだいからは、“甘やかしていた”など言われる。一方で、今のままの状態でもいいのではと、思ってしまう。父母と本人の3人の今の暮らしが、親としても心地いい。年金生活になって、ゆったりと色々な話ができるようになった。夫婦2人切りの旅行も新婚旅行以来、初めてした。父母がいて子どもがいて、猫がいる。少し離れた所に他のきょうだい家族がいる。親同士の仲間もいる今の暮らしが快適。このまま続いてほしい。

○親亡きあとのことを考えることがある。それまでには自立して欲しいと願っている。子どもが元気になっ

- てきたのは、自分を認めてくれる人に出会えたからだと思う。もう少し早く出会えていたらと思いますが、本人の意志を待った結果だからと私自身を納得させている。
- ひきこもり不登校に対する支援が強化されるのはうれしいが、そういう子ども達を生まないような、一人一人を大切にするような環境づくり、例えば少人数学級の拡充、教師がゆとりを持って子供に接する事ができるような体制に力を入れて頂きたい。
- 小学校や中学校としてのあり方、教育自体が、不登校について検討してほしい。そして、教員をもっと増やしてほしい。
- 子どもは単位制高校を経て、今大学生で、まだ休むことなく頑張ろうとしている。ただ、親の離婚を機に今まで親に遠慮して言ったり、態度に出すことができなかつた事を、少しずつ表現する様になった。小学校の頃に出して欲しかったと思うが、その頃は親側も受けとめる程の余裕がなかつたのだと思う。そんな中、親の会に出会えたことは、一人ですつと頑張ってきた親にとっては、とても有難いことだった。大学卒業後は、毎日働くことは考えないようにしている。ゆるやかに就業できるようなしくみが、たくさんできればよいと思っている。枚方市のこの様な取り組み、とても素晴らしいと思う。よい感じでひろがっていくことを願っている。
- 現在の中学校の実状がどうで、どのようなしんどさがあるのか知りたい。また不登校にならないかどうか心配。
- 本人は今パートで働いていますが、薬をのみながらで、一般の中で働いている。精神的に不安定な時があり仕事も1年、2年でやめている。同じ様な人達と働ける場所があればいいのと思う。
- 小学校低学年から不登校。早くおわると先輩方々から言われたが長く、今、20代。小、中ほとんどいかず、高行かず、大学もなく…せめて高校だけでも願ったけれど。親として、学校はいらない!!と思って苦しんだ。今は学校に行かなくても、かけ算～パソコン等々自分でできるようになっている。色々こころみだが、私も自分の子をもってみて、初めてわかった。不登校のイメージががらっと変わった。経験してみないとわからないだろうなあ…と思う。でも、よりそって、あたたかく聞いてくれる人がいてくれることが、本当に支えとなって、何とか生きていけると思う。長い道のり。できれば小学生は小学校の時に行くようにがんばれてたらなあと思う。行かなくてもいいよと言えるのはなかなかできない。言える人はえらい。感謝。
- 本人は、1人で生活しているが、友人や家族との交流が少なく、結婚もしないとなると、子どもの老後が心配である。周りに仲間がいてほしい。ひきこもりや不登校ではなかつたが、人間関係がうまくいかず、これから先の人生を考えた時、不安が多かつたので、つどいに参加した。
- 時々、支援情報を子どもに働きかけて反応を見る。反応をみて、支援者につなぐ。待つ時間と、働きかけるポイントのメリハリ。本人が「楽しい」と思える事を探す。知ろうとする。「こうあるべき」という思い込みをすてる。
- 本人と家族だけの話では、なかなか前へ進めないのが現状。どれだけ、こちらが勉強して、アプローチしても、本人に動きだす力がなければ、ずっとトンネルの中にいる様で、自分の精神がいつまで持つだろうかと不安でいっぱい。相談機関というより、しっかりみてもらえる、精神科の先生や、訪問していただける方などを、強く希望する。とにかく、家の中に、違う風を吹き込んでくれる人がほしい。自分一人の力では手に負えない。この先どうなるだろうと、不安ばかりがつる。
- 家族会で良い方々に出会えたことに感謝している。
- 子どもは元気になったが、不安定就労であることは今後も続く。若者世代全体の問題ともいえるが、個人や家族だけではがんばりきれない部分があり、それをどうしていくか考えている。